

Selenium IDEでtestcase.htmlを開き、Base URLにhttp://www.google.co.jpを指定してください。

1

open コマンドは対象のURLを開きます。Base URLを指定しておけば、相対パスで対象を指定できます。

ここではBase URLにhttp://www.google.co.jp/を指定しているので、
/をopen → http://www.google.co.jp/を開くのと同じです。

2

assert～や**verify**～は、Seleniumの最も基本的なテストの記載方法です。

ここではassertTitleやverifyTitleとしてページのタイトルが「Google」になっている事を確認しています。

assertは、エラーになった場合にそのテストケースは止まります。

verifyは、エラーになった場合でもそのテストケースを引き続き実行します。

このため基本的にはverifyの方が融通がききますが、使い分けが必要です。

3

storeは「対象」に入力した値を、「値」に入力した値として格納(store)しておくコマンドです。

ここではSeleniumという単語をkeywordとして格納しています。

4

typeは「対象」に入力するフォームを指定し、「値」を入力(type)するコマンドです。

ここではid=gbqfqという場所(Googleの検索Box) に、\${keyword}を入力する、としています。

keywordは3でstoreしておいた値(=Selenium)で、これを**引き出すには \${}** で囲む必要があります。もちろん、\${keyword}を使わずにそのままSeleniumと入力しても結果は同じです。

5

pauseは指定した時間pauseするコマンドです(milliseconds)。

(ここでpauseを入れているのは、Googleのサジェスト機能対策です)

6

clickはその名の通り、対象をクリックするコマンドです。

ここではid=gbqfb（Googleの「検索」ボタン）をクリックしています。

7

ここでは検索結果に表示されているはずのSeleniumのページへのリンクをクリックしています。

clickだけではページの読み込みを無視したコマンドなので、

AndWaitを付けることでclickした後にページが読み込まれるのを待つことができます。

8

getEvalはjavascriptを実行するコマンドです。

ここでは、ご存知alertのスク립トを実行しています。

9

getEvalを使うことで色々な事ができますが、ここではpromptでURLを入力してもらい、次の10でそのURLを開くというケースを作っています。こうすることで、例えばパスワード再設定のメールを受信し、その中にあるURLをコピー→次のケース、という流れがスムーズに実行できます。

このSelenium Basicではシフトのホームページを開きたいので、最初からpromptに値を入力してあります。

10

javascript{url}とすることで、9で受け取ったURLを開くようにしています。

11

verifyTextは「対象」に指定した場所に、「値」のテキストがある事を確認するコマンドです。

場所を指定する、という点がポイントです。

ここでは（あまり良い例ではありませんが）、会社概要のリンク（場所）に会社概要（のテキスト）がある事を確認しています。

12

verifyTextPresentは、ページ内に「対象」に指定したテキストがある事を確認するコマンドです。verifyTextとの違いは、テキストがページ内の”どこに”あるかは考慮していない点です。

13

代表メッセージのページに遷移。

14

storeTextは、「対象」の場所にあるテキストを、「値」としてstore（格納）するコマンドです。例えば、ECサイトで注文番号をstoreTextしておき、別の画面で参照する、といったテストに使用できます。

ここでは代表メッセージのパラグラフ1つめ(css=#messageBox > p)を、tange_messageとしてstoreしています。

15

お問い合わせのページに遷移。

16

14で格納しておいたtange_message（代表メッセージのパラグラフ1つめ）を、お問い合わせ内容部分に入力しています。

4と同様、\${}で囲んで記載します。

17

verifyLocationもよく使用するコマンドで、名前の通り、現在いるURLが「対象」のものと同じか確認します。

18

captureEntirePageScreenshotはページのSSを撮り、「対象」に入力した場所・ファイル名で保存します。Firefoxでは問題なく使えますが、他のブラウザだとそのままではうまく動作しません。

19

echoは「対象」に入力した値をログに出力します。ここではテキストを表示させているだけですが、テストを読みやすくするのに使うことができます。